



BMS・9月例会のご案内

—108th Bungeiken Metropolis Seminar—

🕒 2024年9月1日(日)9時30分～12時30分

📍 会場 大東文化会館 K404 教室(ハイブリッド方式)

(🐾 池袋駅より東武東上線各停で7駅、約15分。「東武練馬」駅下車、徒歩2～4分)

🍎 テーマ1 9月説明文教材の授業

①「うみのかくれんぼ」(光村図書出版1年)

報告:西真由子さん(東京文芸研 湘南学園小学校)

②「どうぶつ園のじゅうい」(植田美弥 光村図書出版2年)

報告:山中吾郎さん(東京文芸研 大東文化大学)

🍌 テーマ2 新教材分析シリーズ(3)

①詩「かぼちゃのつるが」(原田直友 光村図書出版5年)

②詩「われは草なり」(高見順 光村図書出版5年)

資料提供:上西信夫(東京文芸研 元千葉県小学校)

9月例会テーマ1は「説明文の授業」とし、9月配当の説明文の2教材を取り上げます。
テーマ2・新教材分析シリーズは資料提供のみとします。皆様の参加をお待ちしています。

🌶️ **参加申込**(ハイブリッド方式)リアル参加は先着40名とさせていただきます。

申し込みについては、リアル参加の方も下記ピーティックスからの申し込みをお願いします。
す。)リアル参加500円・オンライン参加800円(資料代・システム利用料)

参加申し込みは <https://bms202409-bungei-tokyo.peatix.com/> から

一週間前には申し込みができるように準備をします。

【文芸研東京学習会(BMS)連絡先】上西信夫 ☒ →nobu.uenishi@outlook.jp

東京文芸研学習会(BMS・9月例会)のご案内

—108th Bungeiken Metropolis Seminar—



📍 大鳴門橋と渦潮

📍 8月3・4日、第58回文芸研徳島大会が行われました。東京サークル+BMSからは、松園さん、泉川さん、西さん（お二人は全体会司会の任／西さんはオンライン操作係も）、青梅七小の袴田さん、木村さん、小松さん（「故郷」レポート）、山中さん（シンポジウム司会）、上西（中学分科会司会）。佐藤さん、長谷川さん、高橋さんがオンライン参加で成功の一翼を担っていただきました。辻委員長の基調提案から始まり、公開授業・シンポジウム、実践報告、安田奈津紀さんの記念講演、四国大学連の学生さんたちの阿波踊りと、充実の全体会でした。2日目の1年間の準備をして臨んだ分科会も説得力のある授業の事実で参加者の共感を得ることができました。来年は関東ブロック担当の千葉大会（8月2日・3日）です。今から参加を呼びかけるとともに、大会実行委員として皆様のお力添えを期待しています。

📍 BMS7月例会は、7月7日「宮沢賢治を授業する」のテーマのもと大東文化会館で行いました。《二相ゆらぎ》をキーワードとして3教材を繋ぎ、「注文の多い料理店」（東書5年）を上西、「やまなし」（光村6年）を山中吾郎さん、「オツベルと象」（教出中学1年）を佐藤幸雄さんが報告し、宮沢賢治の世界観・人間観に迫りました。

📍 BMS9月例会テーマ1は「説明文の授業」で、光村9月配当教材の「うみのかくれんぼ」（1年）・「どうぶつ園のじゅうい」（2年）。テーマ2は新教材分析シリーズの3弾とし

て「かぼちゃのつるが」「われは草なり」（光村 5 年）の詩 2 編の資料提供。皆様の参加をお待ちしています。

📍 次回も事務局・西真由子さんのホスト役でハイブリッド方式で行います。リアル参加は先着 40 名とさせていただきます。申し込みについては、リアル参加の方もオンライン参加の方も下記ピーティックスからの申し込みをお願いします。

記

1. 期 日 2024 年 9 月 1 日（日） 9 時 30 分～12 時 30 分

2. 会 場 大東文化会館 K404 教室 ハイブリッド方式

（大東文化会館へのアクセス：板橋区徳丸 2-4-21 / 池袋駅より東武東上線各停で 7 駅約 15 分、東武練馬駅下車。どの出口からも徒歩 2～4 分 / 学習会会場は K404 教室 ・ 40 人収容、9 時から 13 時まで借りています。開始・終了時刻が以前より 30 分遅くなりました。）

3. テーマ 1 説明文の授業

① 「うみのかくれんぼ」（光村図書出版 1 年）

報告：西真由子さん（東京文芸研 湘南学園小学校）

② 「どうぶつ園のじゅうい」（植田美弥 光村図書出版 2 年）

報告：山中吾郎さん（東京文芸研 大東文化大学）

テーマ 2 新教材分析(3)

① 「かぼちゃのつるが」（原田直友 光村図書出版 5 年）

② 「われは草なり」（高見順 光村図書出版 5 年）

資料提供：上西信夫（東京文芸研 元千葉県小学校）

4. 主催・参加費・申し込み 東京文芸研 / リアル参加 500 円・オンライン参加 800 円（資料代・システム利用料）

参加申し込みは <https://bms202409-bungei-tokyo.peatix.com/> から

（一週間前には申し込みができるように準備をします。問い合わせ 事務局・西さん）

例会後、例会で扱う教材以外の個別の相談にも応じています。事前に連絡をください。カンとセンスとブームの国語の授業から、視点・形象の相関をふまえた切実な共同体験の形成、文芸体験の思想化・典型化の授業づくりをめざします。

23 年の山口大会、24 年の徳島大会、「国語の教室」、各地の講座で初めて文芸研の理論と実践に接し興味をもたれた方、国語の授業づくりに困っている方、深い学びをと願っている方、教職をめざしている方、青年学校受講生の方、各地のサークル例会が開催困難なサー

クル会員の方々……の参加をお待ちしています。

①インフォメーション

▼八王子文芸研基礎講座 8月30日(金)17時30分～19時30分 八王子市立高嶺小学校(ハイブリッド)「わすれられないおくりもの」(スーダン・バーレイ作 教出3年)
講師：上西信夫 詳細は文芸研HPをご覧ください。

▼明星学園公開研究会 11月23日(土・祝)授業公開「注文の多い料理店」「やまなし」他/全体会(平田オリザ講演)/分科会(国語 総合 社会 理科 保健体育 数学)
詳細は明星学園HP「公開研」をご覧ください。

▼BMS24年度後期の予定 会場：大東文化会館/時間：9時30分～12時30分
9月1日(日) 10月6日(日) 11月4日(月・休日) 12月1日(日)
1月13日(月・祝日) 2月2日(日) 3月2日(日)

▽「文芸教育」(西郷竹彦創刊・文芸研編・新読書社刊)133号 特集「真に『深い学び』をめざすファンタジー教材の授業」/132号 特集「さあ、学級びらき一春に出会わしたいこの教材」/131号 特集「文芸研の授業づくり まとめよみ」/130号 特集「文芸研の授業づくり たしかめよみ」好評発売中! バックナンバーあります。年間定期購読をお願いします。例会でも用意します。131号までは1500円

▽光村版・**新**教科書指導ハンドブック(学年別)発売中/新読書社より各学年1700円+税 セット割引有/この学年でどんなくもの見方・考え方を育てるかの観点で編集

▽文芸研授業シリーズ好評刊行中! 第1弾「たぬきの糸車」(新読書社)・第2弾「一つの花」・第3弾「おおきなかぶ」・第4弾「わらくつの中の神様」・第5弾新刊「サーカスのライオン」/教材分析と授業構想・授業記録がこの一冊に。板書や発問が参考になって、使いやすい・わかりやすいと好評。入門書として最適です。各1000円+税



文芸研の実践理論研究誌 西郷竹彦創刊 文芸研編

「文芸教育」新読書社刊

最新刊133号特集「真に『深い学び』をめざすファンタジー教材の授業」。非現実の世界から現実を逆照射する《虚構の方法》としてのファンタジーの積極性、その授業の具体(「くじらぐも」「注文の多い料理店」「きつねの窓」他)がわかります。学習会でも用意しています。

「文芸教育」132号より1700円+税になります。バックナンバーは1500円+税。

「朝日歌壇・俳壇」より 子ども・学校・ことば・世相・戦争を詠む(5月中旬～8月上旬掲載)

分より撰。どの歌・句も捨てがたく 2.5 か月分で8P にもなりました。)

四月から中二になるから「中二病」調べてみたら自虐のことば(奈良/山添葵)

結婚は幸せの鍵という友の熱弁とレモンサワーとにねぎま(富山/松田梨子)

ねつのでたばちゃんゆでたほうれん草(成田/かとうゆみ)

おしゃべりな妹まるで金魚かな(成田/かとうゆみ)

「初採りの空豆短歌になるんちゃう？」ばあちゃんが言う簡単に言う(奈良/山添葵)

えらそうに言っちゃうときもあるけれどごめんね全部思春期のせい(奈良/山添葵)

昼食もフォトスポットもお土産も恐竜づくし福井の旅路(富山/松田わこ)

後輩の相談を聞くカフェにてたてまえ少しそのあと本音(富山/松田梨子)

玉ねぎを切ります野外活動のカレーの練習する日曜日(奈良/山添聡介)

土曜日は草刈り日曜日はコーラス大勢で笑い過ごす終末(富山/松田梨子)

酔っぱらい電話をかけてくる人と宇宙旅行の約束をする(富山/松田梨子)

授業中こそこそと読む小説に「狐鼠々々」(こそこそ)とありて思わず感嘆(巻岐/内山圭三)

甘い物今日でやめると母が言う和菓子の鮎を2尾平らげて(富山/松田わこ)

姉と私結婚観は違うけどまつ毛パーマのお店は同じ(富山/松田わこ)

2A の40人の手のひらのかかるかんは先生のお土産(奈良/山添葵) コロナ禍以降このようなことも禁止の学校が多い中おらかな学校だ

友達がかいてるマンガ『チンアナゴ99世』いつか読みたい(奈良/山添聡介)

ボーナスは愛車のタイヤと保険代あとは家族にドーナツを買う(富山/松田梨子)

さくらんぼ好きな小さい女の子祖父の中では永遠に私(富山/松田わこ)

新しいスカートも同じような色冒険の夏にするはずなのに(富山/松田梨子)

教室の水そうの水かえる時ドジョウはいつもろう下ににげる(奈良/山添聡介)

ひまわりがわたしのしんちょうこえる時(八王子/土橋りほ)

たんぽぽを「ぽぽ」と言うなり二歳の女兒(こ)ぽぽの頭を優しく撫ぜる(厚木/北村純一)

抜けた歯は骨の白さになってゆくこの手のひらの小さき乳歯(奈良/山添聖子)

真奈は今ゴリラの時代ウォッホーと二足歩行で草に分け入る(横須賀/高橋知奈)

道沿いの赤桃白のつつじ咲き下校の列が乱れ始める(つくば/藤原福雄)

足裏をふくふくしたるをまさぐれば子の子の産みしみどりとご笑ふ(ひたちなか/篠原克彦)

去年は明朝体の人だった今年はゴシック体の担任(奈良/山添聖子)

はるかなる子育てのころをなつかしみひとり居に食むよもぎかしわ餅(福山/金尾洵子)

グラグラの歯を見せに来る子の口の角度はツバメの雛とおんなじ(奈良/山添聖子)

未来への希望描けぬ今の世に生きる子供らスマホに浸る(松戸/加賀昭人) 投稿氏は元松戸市中学国語教師、組合執行委員仲間だった

新任の教師よやめずにいってくれと見守る初夏の研究授業(西条/村上敏之) 孫娘のクラスのママ友たちも同じ

願いだと長女が言う

ツバメ飛び中庭に立つ生徒らは卒アル写真のポーズを決めおり（春日井／神谷伸行）

校長室に一人でいるのが寂しくて事務室にいる女性校長（オランダ／宮沢洋子）

なに食べる？ なっとごはんと即答するドイツ生まれの青い目の5歳（横浜／梶文彦）

AIが誤判定した採点をホモ・サピエンスの眼と手で正す（ふじみ野／片野里奈子）

「死者」なんてたやすく呼ぶなガザの子は死んだんじゃない殺されたのだ（佐野／阿部忠雄）

背伸びる音の聞こえてきそうな子われより大きくなった足裏（奈良／山添聖子）

あさがおの観察日記のはじまりに小一の子らは種の絵を描く（仙台／小室寿子）

ダンゴムシはツノがあるのに優しいとそっとつまんで見入る三歳（福山／倉田ひろみ）

小学生調理実習学ぶこと急須でお茶を入れることと（名古屋／磯前睦子）急須を知らない子が増えた

畦道に家族総出で見守りぬ田植え機に乗る十六歳を（西条／村上敏之）田植え機デビュー

笑みうかべ両手で包み持ち帰る孫の宝かとかげの子ども（松阪／小野多美子）

ナスの花撮りて送りぬ多忙なる子らにしばしば脳休めにと（飯田／草田礼子）

リコーダを吹く時にしか見ない顔うつむきかげんで頬ふくらます（川崎／川上美須紀）

生傷の絶えない吾子の大切な螻蛄（かまきり）の卵が朝に孵化（ふか）せし（海老名／加藤雄三）

大谷のグローブを使い校長とキャッチボールしたと小一の孫いう（亀岡／俣野右内）

見えずとも月の形を知るようにあなたを見つめる母でありたい（大津／萩原愛）

ひらがなの「彙」の字の練習いくたびも記憶の中の国民学校（鳴門／佐々木保行）1941年～45年

教室の最後に電気消す役の「電気係」なる小一の孫（東京都／岡純）

水張田におさんぼの園児ら映り行く大泣きの子も手を引かれつつ（藤枝／永野紀子）

夕焼けを背にして帰る女子ふたり泣いてみる子と慰める子と（富士見／阿部泰夫）

幼子のでっかい笑顔思い出すドクターイエローの絵本買いし日（さいたま／恵村順一郎）正式には 923 形

電気軌道総合試験車、24年間活躍したが25年1月で引退。10月に乗車体験イベントがある

赤児抱いた目礼の母乗ってきてエレベーターに寝息が満ちる（甲府／村田一広）

美しい角持つ鹿が「麗」の字と教え給いし恩師旅立つ（五所川原／戸沢大二郎）

「持つよ」って荷物を持ってくれる子は一番重い荷物だった子（和泉／星田美紀）

「おじいちゃんお金大丈夫？」と孫が訊くやさしい心真夏の涼風（町田／山内有幸）値上げラッシュで年金生

活者はつらい夏だが

雨上りし砂場に埋まるスコップと熊手がきのうのつづきを待っている（岡崎／三上正）

薄暗い広島原爆資料館子の握る手が熱くなりゆく（川崎／小林美佐）

うなだれて相手チームの校歌聴くナインの肩に赤蜻蛉とぶ（西条／村上敏之）

初めてのひと匙の粥ごっくと我が子よこれが日本の味（ひたちなか／安澤美幸）

女子たちが恋する人の名を明かす夜に男子が投げ合う枕（上尾／関根裕治）

雑談になるや顔伏し寝ちゃう子と前向く子 後者が好きだ（さいたま／大浦健）

ガリ切りは升目いっぱいの方が良いよ 友の助言の染みし実習（さいたま／伊達裕子）若い方は「ガリ切り」

「ボールペン原紙」は死語か

耳をすませばバエズの歌声聞こえる We shall over come コロンビア大（大和郡山／四方護）フォーク
歌手60年代から現在まで反戦・公民権運動でバエズの歌は歌われてきた。70年前後新宿西口広場でも歌ったものだ
ガザに比べれば逮捕はなんでもないコロンビア大学ユダヤ人学生が（八王子／額田浩文）映画「いちご白書」
を彷彿

スクランブル交差点午後透明の傘増え海月（くらげ）のごとく行き交（か）ひ（京都／森谷弘志）

水張田（みはりだ）に火影（ほかげ）映して人かげのまばらな窓の夜汽車が走る（長崎／秦桂子）

ゴールデンウィークの初日収穫のキャベツ畑に飛び交う異国語（観音寺／篠原俊則）

ロボットが鮭フライ定食持ってきて孤独が深まる夜のファミレス（堺／中井光世）

避難先の水族館内散歩する体調回復の能登のペンギン（石川県／瀧上裕幸）

A I の自動音声流す世に和する僧侶の響く声引（こわび）き（神戸／安川修司）声引き：歌謡や読経・声明（し
ょうみょう）で長く伸ばすこと

憲法の記念の集いに前文を音読すれど若人はいず（磐田／海山綾子）

連休の一日に過ぎぬか「昭和の日」昭和を映す番組は無し（東京都／三輪裕子）

白内障ひざ痛腰痛言い合いて笑い飛ばしてランチを終える（柏／横尾孝子）

シャンシャンの日本語恋ふる春の風（大阪／渡辺たかき）中国に渡ったパンダ、日本語を聞くと耳をそばだてる
とか、泣ける、と註

待ちやがれ修司忌に唐の笑み（練馬区／吉竹純）前衛演劇劇団・天井棧敷の寺山修司、赤 TENT・状況劇場の唐十
郎。寺山修司忌の5月4日に、唐十郎が逝っためぐり合わせ

唐十郎逝くや寺山修司忌に（倉敷／森川忠信）

福島のいまはむかしの春惜しむ（福島県伊達／佐藤茂）

傘雨忌（さんうき）やパントマイムを見て帰る（京田辺／加藤草児）作家・劇作家・俳人の久保田万太郎の忌日
5月6日「傘雨」は万太郎の俳号

二千人逮捕されても反戦の声高らかに米の学生（取手／緑川智）

田に水の満ちみし夕べ芹の香と蛙の声をあてに呑む酒（北海道／高井勝巳）

流鏝馬（やぶさめ）の一瞬の間に駆け抜けて尻尾ばかりがスマホに残る（宝塚／寺本節子）

百畳の和紙で拵（こしら）へえし大凧（おおたこ）は薫風舞ふ春日部の空（川崎／寺尾和比斗）

今朝もまた猫をかぶった野良猫が庭先で待つ喉を鳴らして（川崎／和泉明宏）

テラヤマの命日に逝く風雲児唐十郎よ我らが青春（鎌倉／石川洋一）

ガザの子の白黒写真と目が合いぬ葱包まれし新聞畳む（佐伯／川西敦子）

地獄での悪魔の叫びに聞こえたりロシア兵士の万歳（ウラー）の雄たけび（五所川原／戸沢大二郎）

三分で水俣病の苦しみを述べよカップラーメンではない（高松／島田章平）その上音声カットの寓

「爆撃で死ぬなら家族一緒がいい」ガザの家族は一緒に寝たり（八王子／額田浩文）

運ばれた母より胎児取り出され生まれながらに孤児となりし子（川崎／宇藤順子）

原爆は「そりゃもう」と絶句して後を続けず逝きしヒバクシャ（アメリカ／大竹幾久子）

輪に結つて茅（かや）神々し夏祓（なつはらえ）（世田谷区／松下長勝）「夏越（なごし）の祓」は一年の折り返し
にあたる6月30日に神社で行われる行事。半年分の穢れを落とし、残りの半年の無病息災を祈願。茅の輪くぐりや人

形流しを行う

麦の秋武器売る国の平和とは（名古屋／鈴木修二）

この町の最後の本屋燕の子（川越／横山由紀子）

植樹祭中村哲をふと唄（しの）ふ（川口／青柳悠）

辞めますと言えずに悩んだ日々がありあればよかった退職代行（三鷹／大谷トミ子）

「今が一番ラブラブなの」と認知症の夫君と手をつなぎ散歩する友は（下野／若島安子）

配達の間はいつもどしゃ降り配達終わると晴れるのは何故（甲州／麻生孝）

「死鬼不夢（シオニズム）」と書いて押さえる腹の虫いつまで続く残虐非道（五所川原／戸沢大二郎）

子育ての喜び言わず大変さ強調する世に少子化進む（京都／中尾素子）

あめのひはねずみがふると思ってたじょうがしまとはふしぎなしまと（神戸／寺嶋龍子）白秋作詞「城ヶ島の雨」の〈雨はふるふる城ヶ島の磯に 利休鼠の雨が降る…〉

物騒な名の県ながら相和する五つの国からなる兵庫県（岡崎／兼松正直）播磨・摂津・丹波・但馬・淡路五国

「戦争を知らない子供たち」は今戦争を知らない老人になりぬ（横浜／曾原哲）

ともかくも選挙に行ってもどこでもいい野党選べと叫びたき日々（さいたま／森田光子）

ぼつちランチとふは寂しきものなれど向ひの席は空けてみるのよ（豊中／夏秋淳子）

老女ひとり銀座ライオン午後三時姿勢正しく黒ビールを飲む（三郷／村山邦保）

やった感出してる夫に心中で「わたしは毎日やってますけど」（岐阜県／箕輪富美子）

「パパのように一家に一人ストレスの無い人がいるのはいいことね」（稲沢／山田真人）

一望の瓦礫のほかは見えねども一万人が埋もれているガザ（八王子／額田浩文）

はつなつの「風通し」さるる三十三万余の哀しき原爆死没者名簿（鹿嶋／大熊佳世子）

水まきをすれば葉かげに隠れいし家守出で来て水を舐めおり（観音寺／篠原俊則）

靴敷きの下に隠した千円に助けられ帰るスマホ紛失（横浜／山本喜太郎）

新じやがのくぼみのやうに子の糸くぼ（日立／加藤宙）

尊大な羞恥心なり臺（ひきがえる）（大和郡山／宮本陶生）〈臆病な自尊心と尊大な羞恥心〉「山月記」中島敦作〈李徴〉の科白から

中学生白黒二色の更衣（長崎／下道信雄）

戦争は始めるよりは止めるのが難しいのだプーチン、ネタニヤフ（船橋／佐々木美彌子）

戦争をはじめる人は戦地へは行かない 死なない だからやめない（萩／石飛加名子）

ラファを去る姉妹は口を一文字に結んでペットの鳥を逃がしぬ（横浜／竹中庸之助）

一番の願いは失業することと没後七〇年のキャバは言いよし（東京都／新井よね子）ロバート・キャバは20世紀を代表する戦場カメラマン。「ロバート・キャバ戦争を越えて」展が開催された

満洲を青酸カリ持ちて生き延びし叔母百二歳にてみかまりたまう（須賀川／渡辺久美子）

月光の色とエミール・ガレは言う酸化コバルトの淡いブルー（横浜／菅谷彩香）ガラス工芸家、エミール・ガラー奇跡のガラス作家一展も終わった

五十年家まもり来し鬼瓦地震（なぬ）に傷めば庭すみに置く（七尾／田中伸一）

まなうらにミヤマキリシマ咲き咲かせ小声でうたふ坊がつる讃歌（嘉麻／野見山弘子）まなうら眼裏、鮮烈

な印象が焼き付く場所としての目の奥。「坊がつる讃歌」芹洋子歌、大分県出身の教師（広島高師卒）が広島で覚えた「山男の歌」が元歌とネット情報

「すみません」は借金未済が語源とう施設に入り借りるばかりで（銚子／小山年男）

十画の夏はおんなじ顔をして真新しさを奏でる不思議（東京都／夏目そよ）名前に注目

仏壇に大杉栄を祀る祖父それを誇りし父を思いぬ（東京都／河野行博）

豹（ひょう）柄は変へずに伯母の更衣（ころもがえ）（川口／知念哲夫）

けふからの「いつもの奴（やつ）」は冷奴（ひやっこ）（大阪／上西左大信）

曾（かつ）て塗師（ぬし）老いて厨（くりや）に踏（ふき）を炊く（相模原／平井靖雄）郷里の実家の隣家は大きなしゃもじが看板の塗師屋だった。漆の匂いが蘇る。

経国も済民もなし五月雨（阿賀野／波多野雄三）

八丁堀、小伝場町と地下をゆく電車にゆかしき藤沢周平（堺／丸野幸子）メトロ日比谷線。八丁堀に町奉行配下の与力や同心の組屋敷が置かれた。小伝場町は牢屋敷があったところ

家康も歩きしトンボロ江の島へ徒歩で渡れば潮の香に酔ふ（横浜／松村千津子）トンボロは陸繋砂洲（りくけいさす）の意と註

「メンソレはなんでも効くのよ」という祖母の笑顔がなんでも癒してくれた（東京都／岩本朗）メンソレーム、オロナイン軟膏は万能薬だった

「病院のハシゴ」と言う人「診察券でトランプできる」と笑う人あり（神奈川県／神保和子）高血圧・糖尿病・無呼吸・皮膚科・整形外科・歯科と私も「病院のハシゴ」の身

砲弾を込めて背を向け耳塞ぐ幾度も兵士はそれを繰り返す（岐阜県／日比野和美）

〈朝来帰（あさらぎ）〉とう郷のバス停降りたてば耳になじみし潮の騒めき（東大阪／池中健一）和歌山県白浜町のバス停

鉄道を採算だけで評価する日本社会の底の浅さよ（宇都宮／三橋伸央）鉄道も郵便も民営化とはそういうこと

「メンタルで打つのではない技術で打つ」笑みて応える大谷選手（町田／高梨守道）通訳の横領にも関わらず草引きの手を止め聞けばあの言葉テッペンカケタカと正に鳴く（宮津／中田紗倭子）ホトトギスの鳴き声。

「目には青葉山ほととぎす初鯉」（山口素堂）の句とともに高校の国語教師に習ったことを思い出す

国民のための減税などではなく政権維持のための減税（観音寺／篠原俊則）国民はみんなお見通し

わが町に本屋なければ入選に賜（た）びし図書券ひきだしの中（ひたちなか／篠原克彦）

立ち読みは座ってしてと椅子を置く恐縮至極な書店と出会う（春日部／阿部功）究極のサービスが町の書店を残すことになってほしい

ルビーよりサファイアよりも胸おどる新調の鎌もって畑へ（新潟／太田千鶴子）

百冊を超ゆる線描残したる山を愛した坂本直行（札幌／伊藤哲）記念館には十勝六花（エゾリンドウ・ハマナシ・オオバナノエンレイソウ・カタクリ・エゾリュウキンカ・シラネアオイ）を描いた作品を展示。北海道名物「六花亭」の包装紙が有名

我が代はりなどいくらでも心太（ところてん）（富士／村松敦視）

すいすいと植木等とあめんぼう（瑞浪／岩島宗則）

かき氷突く平和の国の子よ（東村山／高橋喜和）

初夏の朝霧となり狩行逝く（熊本／有働利信）鷹羽狩行（たかはしゆぎょう）5月27日逝去 天瓜粉（てんからん）しんじつ吾子は無一文

被災後のふるさとの海解禁日に二時間休まず栄螺（さざえ）採る海士（あま）（石川県／瀧上裕幸）

ウクライナの平和を願ふメッセージカード受けたり無言館出口（鹿嶋／大熊佳世子）信州上田にまた行こう
一キロ先の宅地に熊の出没し二十年経つ柿の木を切る（五所川原／戸沢大二郎）

ボルシェ止めアルマーニ脱ぐ影もなし瀬戸の渡りの秋の夕暮れ（高松／黒岡信幸）「駒とめて袖打ち払ふ影もなし佐野の渡りの雪の夕暮れ」新古今集・藤原定家のパロディ。〈佐野の渡り〉紀伊国の歌枕

物故者に私の名前挟まれて同窓会の名簿が届く（名古屋／井上隆夫）

「右翼急伸欧州覆う」の横見出し 螺旋（らせん）を描き始める歴史（東京都／十亀弘史）

桜餅吹雪に鹿の子道明寺スイーツなんて呼ばれたくない（草加／伊藤真砂子）饅頭だ！

さんぼ中「九条守れ」のデモありて犬といっしょに列に加わる（川西／市森晴絵）

「道綱の母の産んだ道綱は」過不足なき記述なれども（高松／森和代）「蜻蛉日記」の作者は〈道綱の母〉。「更級日記」の作者は〈藤原孝標女タカスエノムスメ〉関係性の中でしか存在を記されなかった女性。「虎に翼」が人気なのがわかる

助手席で助手的な事なにもせず目的地まで眠るあなたは（枚方／久保哲也）

要するに手玉に取られていたとしてもだ亡妻（きみ）の代わりは居ないってこと（仙台／二瓶真）

葉紐誰（た）が挟みしやひとすじの凹（くぼ）みかすかに残りてしずか（箕面／大野美恵子）

青々と氷河の動く夏来たる（小城／福地子道）

幻の翼広げて昼寝の子（八王子／額田浩文）

七夕や千々に乱れる東京都（練馬区／吉竹純）千々と知事の掛詞

沖縄忌十万の死者みな怒涛（横浜／三玉一郎）

そこがいい？じっと動かぬ竿の端蛙をよけて洗濯物干す（岡山県／小林和恵）

「お手洗い」の表示の上に子つばめのすまして座る朝の改札（枚方／唐崎安子）

半額の弁当なのに定価分きっちり上がる血糖値かな（佐野／阿部忠雄）

泥酔の恥を濯（すす）げるはずもなく呻（うめ）きつつ朝のシャワー浴びおり（横浜／黒坂明也）

雲水をつましき作務衣のポケットに着信あるらしスマホが光る（橋本／秋月晶江）

日タムツキ換える介護士だからこそわかりますヒトの果てる時果て方（横浜／太田克宏）

うなぎやの順番待つ一時間父と木陰で過ごす父の日（奈良／山添聖子）

九条を守り守られ八十年戦争知らずに生きてきた日々（高崎／野口啓子）

作者名知らず愛誦（あいしょう）しておりし「新緑がパセリほど」の俳人が逝く（水戸／中原千絵子）鷹羽狩行（たかはしゆぎょう）「摩天楼より新緑がパセリほど」の註

人質の四人を救出するために二百七十四人を殺す（観音寺／篠原俊則）

戦えば必ず人が死ぬことを知ってもやめぬホモ・サピエンス（筑紫野／桂仁徳）

ためいきをこぼしてしまった雨の日の床にくまなくかける掃除機（和泉／星田美紀）

戦争を知らない世代という我ら核兵器なき世界も知らず（さいたま／鈴木俊恵）

出征の父に向ひて拳手の礼二歳の吾は涎掛（よだれか）けして（蒲郡／古田明夫）

吸ひかづら真白く花を開きたり飢餓をりしわれら吸ひて遊びき（鹿嶋／加津牟根夫）スイカズラは細長い花筒の奥に蜜があり、古くは子どもが好んで甘い蜜を吸うことが行われたことにちなむ。砂糖の無い頃の日本では、砂糖の代わりとして用いられた。別名金銀花

ひとところ草刈り残すを子に問えば萱鼠（かやねすみ）の巢に気付きたりしと（光／永井すず恵）

籐（とう）寝椅子終（つい）の眠りを練習す（札幌／近藤由香子）

ほうたるややさしきものはみなとほし（大津／板垣蚌珠）

戦火まだこの星燃やす沖縄忌（大和／岩下正文）

丸洗ひしたき政治や荒き梅雨（横浜／高野茂）

恥知らぬ国となりたり桜桃忌（藤沢／朝広三猫子）

水鉄砲とは青竹で作るもの（大阪／今井文雄）

被曝牛を飼い続ける人の五千日、野太き声が今日も地を這う（福島／美原凍子）

文具店三軒目にて二百字の原稿用紙に辿り着きたり（中津／瀬口美子）

年取ると見知らぬ我がしゃしゃり出て恥かくことが多くなりけり（三郷／木村義熙）

栓抜きで必ず二回蓋叩（ふたたた）き瓶ビール飲みき昭和の父は（観音寺／篠原俊則）言われれば…

一時間紀伊国屋前で待っていた携帯など無き半世紀前（高岡／梶正明）ハチ公前でも

もし彼が打てなくなったら熱烈なファンにもならむ大谷翔平（土岐／高柳恵美子）

法隆寺金堂壁画の阿弥陀仏に少し似ている大坂なおみ（五所川原／戸沢大二郎）

右左（みぎひだり）どちらにも開く冷蔵庫こんなふうには生きてはいけぬ（茨木／瀬川俊子）

少しだけ欠けているのがとても綺麗月も君もそして私も（福岡県／中村未央）

病床で母が手にした「蟬声（せんせい）」を初めて開く七度目の夏（和歌山／岡田信也）河野裕子の歌集／たと

へば君ガサッと落葉すくふやうに私をさらつて行つてくれぬか「森のやうに獣のやうに」／朝日歌壇選者永田和宏は夫

ヘーゲルの国で生まれしさくらんぼ日本で昇華し佐藤錦に（東根／庄司天明）東根市はサクランボの産地、ア

ウヘーベンしてあの赤いルビー・佐藤錦に

米軍の上陸翌日叔父戦死読谷村の喜名という地で（船橋／佐々木美彌子）

慰霊の日九十二歳が平和の礎にて強く発する「戦争はやだ」（長野／弥津信子）

蛍籠（ほたるかご）めく終電車並び過ぐ（我孫子／藤崎幸恵）スマホのライト

変哲も無くて粕壁楸邨忌（越谷／安居院半樹）加藤楸邨 1993年7月3日歿。水原秋櫻子に師事「人間探求派」

旧制粕壁中学校に務める

どちらかを選ばねばならぬアメリカと選べぬ日本どちらが不幸か（朝霞／岩部博道）

二階級特進しても「上等兵」、伯父の墓標を蟻這いのぼる（神戸／松本淳一）

意味不明なりし政見放送を真面目に必死に手話通訳者は（八王子／額田浩文）都知事選での想定外のポスター

掲示板問題と「愉快犯的」政見放送

辺野古にも南西シフトにもふれず首相は追悼すませ帰京す（宇都宮／手塚清）

島よ帰れ島を還せと警鐘鳴らす海霧ふかき納沙布岬（仙台／沼沢修）

この世には何も持たずにやって来て何も持たずに去って行くだけ（筑紫野／二宮正博）

二週間生き延びられたら偉業だとロシアの突撃兵は言いたり（観音寺／篠原俊則）

沖縄忌は義勇兵役法公布の日少年兵の動員決めた日（石川県／瀧上裕幸）「根こそぎ動員」の象徴、兵役義務のない十七歳未満や女性も動員された

沖縄戦慰霊の詩をばそらんずる仲間さんに向き思わず礼する（飯田／草田礼子）宮古高校3年の仲間友佑さんが朗読した「これから」

残業をなくしなさいと指示があり記録残さず残業をする（京都府／片山正寛）

沖縄にも創氏改名ありしこと旅して知りぬところに痛し（船橋／佐々木美彌子）皇民化政策の一環で、朝鮮半島での創氏改名と同じことが沖縄でも行われていた。島袋は島・島田、仲村渠（なかんだかり）は仲村・中村、小橋川は小川に…。方言の殲滅、鳥居・神社の設置とともに。

「安全」の文字に「女王」と真ん中漢字を知るや蜜蜂の群れ（豊川／石黒永一）

「平日の縁側で飲む」よく読めば平日の縁側わが目老いたり（大和郡山／四方護）

次々と近所の人を訪れる家族葬でもおかまいなしに（川崎／和泉明宏）

われもまた陛下と同じ世代にて陛下は持たぬ長財布持つ（相馬／根岸浩一）

いくたびも警笛鳴らす花咲線シカのいのちを守りつつゆく（仙台／沼沢修）

減税で喜ばせるより納税を誇りに思える国にしてくれ（大阪／加藤成和）

梅雨晴れに四本の傘干したればアゲハチョウ来て順にとまりぬ（奈良／山添聖子）

巨人敗けた、阪神勝った、歌載った 豊むに惜しい今朝の紙面よ（大和郡山／四方護）

宅配の瓶牛乳は紙パックに替はりて昭和の音ひとつ消ゆ（仙台／磯田秀子）

夏草やいのちの星の成れの果て（福島県伊達／佐藤茂）

太陽の呵々大笑（かかたいしょう）と田水沸く（京田辺／加藤草児）

果てもなし丸い地球の草を刈る（愛媛県鬼北町／中山富貴）

新紙幣この暑き日に皆正装（世田谷区／渡辺礼司）

冷房か死かと予報士脅しけり（一宮／岩田一男）

地震M5の豊後水道に飛び起きぬ伊方原発の不安残りぬ（大分／大城伸一郎）初句字余りで緊迫感が伝わる。

5拍で「じしんえむごの」を発する

胃カメラも大腸カメラも通りゆく人体といふ一本の管（八尾／水野一也）人体をチクワに喩えた科学者もいる

丁字橋の袂（たもと）の祖父の印刷屋を映画「ひろしま」が記録していた（光／永井すず恵）「丁字橋」は米空軍の標的となった相生橋のこと

緊張をかすかにはらむスーパーの食虫植物売り場の空気（奈良／山添聖子）

七割の基地の負担を沖縄に負はせ享受すあやふき平和（嘉麻／野見山弘子）

夕暮れのシャッター街に生き残る書店の明かり灯台のごとし（小金井／神蔵勇）

銅、アルミないかと拙い日本語の回収人来る鄙（ひな）びた村に（五所川原／戸沢大二郎）

「梅雨寒」という言の葉が燃えつきて消えゆきさうなこの温暖化（京都／五十嵐幸助）

被爆地と被曝地のあるこんな国ほかにないこと幼に教える（対馬／神宮齊之）

心とはそんなに固きものと知る「刺さる」「折れる」と若者の言ふ（宇佐／長野裕子）

やんわりと優しいようで曖昧な「だいじょうぶ」という断り方（仙台／石川初子）

いきれとは草の発する何ならむ掻き分けるごと力漲（みなぎる）る（宇都宮／生沼牧子）

中心に諏訪湖を置けば点対称伊豆半島と能登半島は（松山／宇和上正）地図で確かめて納得

欲望の坩堝（るつぼ）あふるる暑さかな（横浜／三玉一郎）

弟よそろそろ眠れ終戦日（津／亀井カノン）

日本の八月八十回忌かな（八王子／額田浩文）

被爆樹の声なき声や蟬しくれ（茅ヶ崎／清水吞舟）

原爆忌空に無言の死者あまた（杉並区／漆川夕）

睡魔棲（す）む床屋の椅子にすぐ昼寝（伊万里／萩原豊彦）

ヘリコプター大暑の空を攪拌（かくはん）す（群馬県みなかみ町／長浜利子）

ひそめるは岸田今日子が蟻地獄（埼玉県毛呂山町／岸微熱）学生時代観た安部公房の小説の映画「砂の女」。岸田今日子が砂の女を演じた

アホウドリ 信天翁の身辺雑感

◎ **ビフォーアー徳島大会** 千葉文芸研の曾根さんに昨年のアフター山口大会と同様声を掛けていただき、辻さん・小松さんとレンタカーで鳴門市を巡った。一番札所霊山寺を経て鳴門の渦潮を観に行く。いつものように珍道中だったが…。代表者会議の後は、山中さん、西さん、泉川さん、広島の佐々木さんらと精肉店直営のバルでしこたま飲み食い、ホテルのベッドに倒れ込み爆睡。

◎ 翌日は 23 年ぶりの徳島大会。前回は現役で職場の多くの仲間と参加したことを懐かしく思い出す。会場最前列のかぶりつき席に陣取る。情勢から説き起こし、現状の国語教育批判（個別化・実用化）と文芸研のめざす国語教育を対峙させた辻委員長の基調提案。奥葉子さんの「きゅうしょく」（谷川俊太郎）の公開授業と授業をめぐるのシンポジウム。国語の授業づくりを核にして繋がりを大事にした山中尊生さんの実践報告。四国大学連の学生さんたちによる本場阿波踊りのパフォーマンス舞台。フォトジャーナリスト・安田奈津紀さんの記念講演と文芸研大会らしい充実の全体会だった。夜はコロナ禍で自粛していた交流会が 5 年ぶりに復活。全国の仲間との再会を喜び合った。この夜も酩酊爆睡、ホテルの廊下まで鼾が漏れたかもしれません。

◎ 大会 2 日目は領域別・学年別分科会のダブルヘッダー。午前の領域別は毎年重厚な実践をレポートし続ける斉藤鉄也さん（道東サークル）の作文分科会に。作文教育の伝統と文芸研の虚構の作文指導・関連指導の主張が見事に統一された報告に唸る。午後は小松小百合さんの中高分科会「故郷」に司会者として参加。（佐藤幸雄さんが司会の予定で準備を進めていたが、家庭の事情で急遽代役）共同体験を大事に、とりわけ〈私〉を異化して読むことで読者が〈私〉を批判し乗り越える読み、ヤンおばさんやルントーの〈盗み〉の意味づけなどさすが中学 3 年生ならではの発言が参加者から高い評価を得た。徳島名物フィッシュカツも酢橘ソーも鯛もワカメも阿波尾鶏も…頭も胃袋も満腹の徳島大会だった。

🌟 高橋純子さん（朝日新聞編集・論説委員）も絶賛の NHK 連続テレビ小説「虎に翼」が

評判だ。「虎に翼」は韓非子の言葉だそうだが、「鬼に金棒」と同義。伊藤沙莉演じる主人公の寅子（ともこ）の名前は、五黄の寅年に生まれたのが由来という。私の祖母（養母）の名前も「トラノ」といい、変な名前だなあと思ったことがあるが、運勢判断で気運が強いとされていたからだと推測される。過日の放送では関東大震災の朝鮮人虐殺・朝鮮人差別の問題を取り上げていた。関東大震災朝鮮人虐殺追悼式典の追悼文を拒否し続ける小池百合子都知事や歴史修正主義者の面々にこそ観てほしい内容だった。

✳️ その小池都知事、8月7日のヤクルトー阪神戦での「ズッコケ始球式」の怪我が話題になっている。全治2か月とのことでそのことはお気の毒だが、神宮球場ほか秩父宮ラグビー場等公共の富である神宮外苑の森を壊し再開発を進めることを許可した都知事への神宮球場の「呪い」のようにも思える。甲子園球場での高校野球が始まった。今年は甲子園誕生100年の節目の年とか。甲子園球場も老朽化が問題になったとき、ドーム式球場にという案もあったようだが、あの蔦も含めて commons としての再生の道を選択した。神宮球場も外苑の杜もあと2年で100年を迎え、学生野球の聖地として甲子園球場と同格である。目先の金儲けのために樹木や歴史的建造物の破壊を許してはならない。

✳️ 神宮外苑の再開発を「風致地区」の規制を緩和し、大正時代に植えられた樹木の伐採・移植、高層ビルや商業・宿泊施設、コンサートができるドーム型人工芝ラグビー場、新神宮球場建設など日本を代表する文化的景観を破壊しようとしている。坂本龍一さん、村上春樹さん、桑田佳祐さんらも「一度壊せば取り返しがつかない」と反対していたのは周知のこと。現状では一銭の儲けにもならないので神宮外苑再開発で利益を得ようとしている。事業主体は明治神宮・日本スポーツ振興センター（JSC）・三井不動産・伊藤忠商事。

✳️ 神宮の杜問題は、1980年以降「規制緩和」と「分権化」を通して公的サービスや公共分野が「民営化」「私有化」された縮図でもある。市場に委ねることが最も効率的で生産的で合理的であるというネオリベリズムの行きつく先が樹木伐採、高層ビルの建設と神宮球場・秩父宮ラグビー場破壊も厭わないむき出しの市場原理主義の姿である。

✳️ 「一匹の妖怪がヨーロッパを徘徊している」は『共産党宣言』の有名な冒頭の一節だが、今、日本中を徘徊しているのは「活」だろうか。テレビでは〇〇生命のCMが繰り返し流される。葬式代くらい自分で残せという自己責任での「終活」の勧めである。「就活」「保活」「婚活」「妊活」「離活」「朝活」「寝活」「終活」…かつての福祉国家のスローガン「ゆりかごから墓場まで」に代わり「妊活」から「終活」へと、公的なサービスから個人の能力の問題（自己責任）へと人生設計が書き換えられた。（この指摘は堅田香緒里「生きるためのフェミニズムーパンとバラの反資本主義」タバックスによる）

2025年文芸研第59回大会は千葉大会

8月2日(土)・3日(日)

柏市周辺の会場を確保中

参加＋実行委員としてお力添いをお願いします。

BMS 会場案内



大東文化大・板橋キャンパスとお間違いなく

大東文化会館



大東文化会館へのアクセス：池袋駅より東武東上線各停で7駅（約15分）、東武練馬駅（大東文化大学前）下車。どの出口からも徒歩2～4分／学習会会場はK404教室（40人収容）、9時から13時まで借りています。（山中吾郎さんに尽力いただき、10月6日（日） 11月4日（月・休日） 12月1日（日） 1月13日（月・祝日） 2月2日（日） 3月2日（日）まで予約済み。今から予定に入れてください。開始・終了時刻が以前より30分遅くなりました。）エデュカス東京（麴町）より大東文化会館までの所要時間がかかる方もいると思いますが、学習会充実のため引き続きリアル参加にご協力ください。



📍 文芸研東京学習会 (BMS)連絡先 上西信夫



→ nobu.uenishi@outlook.jp



→ 080-3253-474

2

学習会で扱う教材希望がありましたら上西までメ